



写真①

特別展「スーラージュと森田子龍」展開連 こどものイベント

「スーラージュと森田子龍 ふたりはどんな仲間？」

- 開催日時：2024年3月23日(土)10:30~12:10
- 参加者：子ども5名、保護者3名
- 対象：小学生
- 場所：レクチャールームと企画展示室

- 概要
スーラージュと森田子龍の作品の似ているところを探しながら鑑賞し、ふたりがどんな仲間なのかを探りました。

■1 学芸員のレクチャー

展示会を担当した鈴木学芸員がスーラージュはフランス人で画家、森田子龍は兵庫県豊岡市出身の書家だと、ふたり一緒に写った写真を見せながら紹介しました。

「国もジャンルも違うのに森田はスーラージュのことを「白黒の仲間」と呼んだそうです。展示室でふたりの作品を鑑賞し、ふたりはどんな仲間なのかを探ってもらいます」とお話ししました。さて、どんな作品かな？

スーラージュの故郷を紹介するコーナーには名物名料理も紹介されていて、子ども達が興味深そうに見ていました。



写真②

◇こどもの感想

・作品のにているところをじっくり見るのがとても楽しかったです。(小4)

◇保護者の感想

・書道作品を鑑賞する機会があまりなかったのですが、スーラージュと同時に比較しながら鑑賞することで、新たな楽しみを発見できたと思います。

■2 鑑賞①森田の作品はどんな作品？

部屋の中に入り、まずは森田の《蒼》という作品(写真③の作品)を見ていきます。「目と口みたいなのがあるから人の顔に見える」「犬にも見えるよ」「筆の跡が見える」「黒色でかいている」「大きな筆でかいているのかな」「かすれたところがあるから、速くかいてそう」などお話ししてくれました。実はこの作品はタイトルの「蒼」という漢字1文字をかいたものだと言いました。それを聞いてからまたじっくり見ていき、「何となくそれっぽい」「上のところがくさかんむりに見える」「首という字にも見えるよ」など、さらに気づいたことを教えてくれました。他に《底》というタイトルの作品も同じように見てきました。



写真④

■4 鑑賞③とふりかえり

展示室の中で気になる作品を見つけては立ち止まりながらみんなでじっくり鑑賞しました。まだまだ見たいと名残惜しさを残しつつ展示室を後にしました。

レクチャールームに戻ってから、展示を見てみてふたりはどんな仲間だと思ったかを聞くと、「筆の扱いが似ている仲間」「黒色を使う仲間」「形が似ている仲間」など発表してくれました。

最後に、鈴木学芸員がスーラージュの制作風景の写真や森田の《蒼》制作風景の動画を流すと、子ども達は一生懸命に入っている様子でした。

□展示会担当からのコメント

参加者の皆さんと一緒に、ゆっくり、じっくり、よく観察することで、それぞれの作品の魅力を発見できました。森田子龍の書の前では、何か別のものにたとえて、たとえばライオンが〇〇しているところ、といった意見が次々に出ました。一方で、ピエール・スーラージュの絵画は、どうも勝手が違うようです。それは、抽象を極めたスーラージュが、作品から、意味や具象性を排していることの証なのではないか...など、皆さんの様々な反応から貴重な見方を得ました。

(鈴木学芸員)



写真③

■3 鑑賞②似ている作品を探そう！

続いて、スーラージュの作品が展示してある部屋に移動し、先ほど鑑賞した森田の作品と似ている作品を探すことに挑戦！「ここが似てるかも」「こっちの作品も似ているよ」など、お話ししながら部屋の中を探しました。

「どの作品が似ていると思った？」とたずね、該当の作品の前までみんなで移動し発表してもらいました。

「顔みたくところ」「余白の使い方が似ている」など、同じ作品を選んでも似ていると思ったところが違って、他の人の気づきに「たしかに！」「そこも似てるね」という反応を示していました。鈴木学芸員も、みんなのさまざまな気づきにとっても感心していました。



写真⑤